

OLYMPUS

True to Life

Olympus Vision

2025年3月期 中間株主通信

2024年4月1日～2024年9月30日

証券コード:7733

代表執行役メッセージ



取締役 代表執行役
会長兼 ESG
オフィサー(ESG 担当役員)

竹内 康雄

経営陣と社員が一丸となって、
「私たちの存在意義」である「世界の人々の
健康と安心、心の豊かさの実現」に
引き続き専心してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度の経営体制の変更に伴い、私が現在CEOの役割を担い、会社を率いています。我々の経営理念である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に従って、当社の戦略の実行と、世界中の患者さんに不可欠な製品とサービスの提供を継続してまいります。また、従業員が社会的責任を自覚し、誇りを持って働ける環境づくりを進めてまいります。

従業員、執行陣、そして取締役が同じベクトルを向き、「私たちの存在意義」に従って未来を描き、患者さんの安全を最優先に、イノベーション、製品、ソリューション、人材、社会への貢献などのあらゆる面で、すべてのステークホルダーから評価される企業になるべく変革を加速してまいります。そして、私たちにしかできない革新的な医療価値を提供し続けることで、持続的な成長の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

2025年3月期第2四半期累計実績と通期業績見通し

当第2四半期累計期間は、円安の追い風もあり、連結売上高は前年同期比10%の増収となりました。特に北米では、消化器科、泌尿器科、呼吸器科の3つの注力領域全てで2桁成長を実現しました。営業利益は705億円と前年同期比、大幅な営業増益です。主な要因は、前期に計上したVeran Medical Technologies社関連の損失の減少に加え、販管費のコントロールや為替の追い風によるものです。一時的な特殊要因である「その他の収益」および「その他の費用」を除外した調整後営業利益は851億円、前年同期比で28%増加しました。2025年3月期の見通しについては期初から変更はありません。事業環境は依然として不透明ではありますが、状況を注視しながら適切かつ迅速に対応し、期初の見通しの達成に向けて取り組んでまいります。

総合的な品質変革プログラム「Elevate」

当社は2022年と2023年にFDA^{*1}から警告書を受領しました。現在、複数年にわたる総合的な品質変革プログラムであるElevateを実行しており、FDAからの指摘事項への対応は順調に進捗しています。Elevateは、規制当局に対するコミットメントを果たし、さらに未来に向けて品質文化の基盤を強化するための取り組みです。Elevateを通じて、規制要件を遵守するだけでなく、品質・患者さん第一、顧客中心主義という考え方を会社としてDNAに刻み込んでまいります。

^{*1} 米国食品医薬品局

[詳しくはこちらから](#)

総合的な品質変革プログラム「Elevate」の詳細については下記ページをご参照ください

統合レポート2024「患者さんの安全と将来の成長のための取り組み」

https://www.olympus.co.jp/ir/data/integratedreport/pdf/integrated_report_2024j_08.pdf

今後の成長に向けて

当社には大きな成長ポテンシャルがあると考えています。成長を生み出す重要な価値の源泉の一つがAIを活用したインテリジェント内視鏡医療エコシステムであり、データとAIの力を活用して、臨床成果と効率性を改善することを目指しています。加えて、新興国市場の成長にも期待しており、現地のパートナーとともに、内視鏡医療に関する医療従事者のトレーニングを支援しています。また、注力3領域への事業投資やM&A、デジタル化への適切な投資等も重要な要素であり、引き続き取り組みを進めていきます。今後も、当社がイノベーションの創出と医療機器の幅広い提供およびアウトカムの向上に貢献する企業として評価いただけるよう、努力してまいります。引き続き、株主の皆さまの一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年3月期 第2四半期累計実績および通期業績見通し 連結業績

| | | 2024年3月期 第2四半期 累計実績 | 2025年3月期 第2四半期 累計実績 | 前年同期比 | 2025年3月期 通期見通し |
|--------------|--------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------|-------------------|
| 継続事業 | 売上高 | 4,316億円 | 4,740億円 | +10% | 10,090億円 |
| | 営業利益 | 38億円 | 705億円 | +1,772% | 1,760億円 |
| | 調整後営業利益 | 665億円 | 851億円 | +28% | 1,975億円 |
| 継続事業 + 非継続事業 | 親会社の所有者に帰属する当期利益 ^{*2} | 2,163億円 | 490億円 | △77% | 1,210億円 |

^{*2} 2025年3月期第1四半期より整形外科事業を非継続事業に分類しています。非継続事業からの利益は継続事業と区分し、「売上高」から「調整後営業利益」までは継続事業の金額を表示しています

2025年3月期の主なトピック

長期的かつ持続可能な成長を実現する戦略的な価値の源泉である、①事業拡大とグローバル展開、②戦略的M&A、③ケア・パスウェイの強化、④インテリジェント内視鏡医療エコシステムの中で、主なトピックを2つご紹介させていただきます。

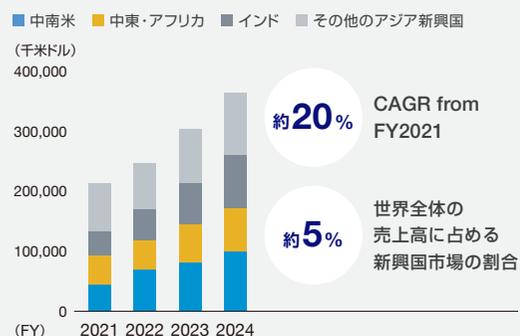


事業拡大とグローバル展開

新興国市場における内視鏡医の育成支援 および医療基盤強化への貢献

当社の成長ドライバーであり、グローバル展開の機会でもあるのが新興国市場です。新興国では、人口の急増や経済成長に伴う所得の増加によるライフスタイルの変化、医療インフラの拡充等により医療機器の需要が拡大しています。一方、新興国では内視鏡医の不足が課題です。そこで当社は、内視鏡医の育成活動への投資を強化していきます。新興国の売上割合はまだ大きくないものの、ここ数年の年平均成長率は20%と非常に高く、今後も高い成長が期待できます。

医療分野における新興国市場の売上成長推移



人口10万人あたりの内視鏡医数^{*1}

| | |
|-----------|-------|
| タイ | 3.1人 |
| マレーシア | 1.8人 |
| ベトナム | 1.1人 |
| インド | 0.7人 |
| フィリピン | 0.4人 |
| インドネシア | 0.2人 |
| [参考] 日本 | 28.2人 |
| [参考] アメリカ | 4.7人 |
| [参考] 中国 | 3.4人 |

^{*1} 2023年9月時点。一般公表データより当社作成

インド 消化器内視鏡の出張検査の支援を通じてインドの医療水準向上に貢献

急激な経済発展と人口増加が進むインドでは、がんの検診・治療のインフラや専門医が不足しており、とくに農村部に住む人々は、体に不調があっても検査を受けることが難しい現状があります。オリンパスはその課題解決の一端を担うべく、病院と協業して、内視鏡検査装置を車に乗せて村々を巡る、出張検査プログラムを推進しています。



詳しくはこちらから

統合レポート2024「新興国市場」

> https://www.olympus.co.jp/ir/data/integratedreport/pdf/integrated_report_2024j_15.pdf



インテリジェント内視鏡医療エコシステム

インテリジェント内視鏡医療エコシステムの主な進捗

内視鏡医療をリードするメドテックカンパニーとして、オリンパスはデジタル技術を活用することによって、患者さんやお客様のために、インテリジェント内視鏡医療エコシステムの構築を進めています。

インテリジェント内視鏡医療エコシステムの商業化に向けた進捗の一つとして、クラウド型AI内視鏡画像診断支援システムについて、1製品が米国FDA認可、3製品がEU MDR²認証を取得しました。現在、当社では欧州の5つの病院と共同開発を進めており、初期のソリューションに関して顧客から良好なフィードバックをいただいています。インテリジェント内視鏡医療エコシステムは、オリンパスの内視鏡医療の幅広いポートフォリオの可能性を高め、相乗的な価値を最大限に実現すると考えています。

^{*2} 欧州医療機器規則

(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

私たちのビジョン

現在の課題

意思決定にける時間不足
すべての症例に対して最適な評価を行うための時間が足りない

改善余地のあるワークフロー
レポート作成に時間がかかる

患者さんの安全の最適化
一貫した内視鏡検査に対する標準指標の欠如

手作業による厳密な管理
コスト圧力が高まる在庫とサービスの管理

デジタル製品

CAD/AI

内視鏡検査における病変検出と判定を支援

ワークフロー管理

内視鏡検査のワークフローに沿って作業を自動化し、管理業務を最小化。レポート作成の質を高める

インサイト/分析支援

評価指標を可視化し、内視鏡検査の質の改善を目指す

資産管理

データをシームレスに活用し、機器の安定的・効率的な稼働と稼働時間の向上を目指す

目指す顧客のメリット

手技の前後・手技中のデータに基づいた分析支援により、より適切な意思決定を実現

ワークフローを合理化し、事務作業を削減することにより効率性を改善

AI搭載ツールの支援による内視鏡検査の標準化

コスト効率化と最適な機器活用を推進し、持続的に進化

詳細はこちら

統合レポート2024「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」

> https://www.olympus.co.jp/ir/data/integratedreport/pdf/integrated_report_2024j_13.pdf

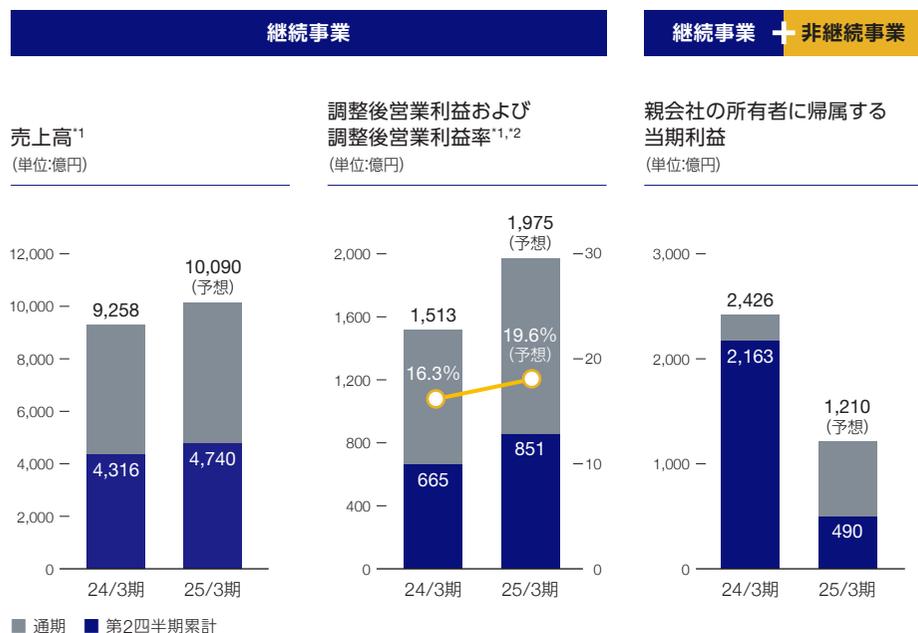
決算説明会プレゼンテーション資料「2025年3月期 第2四半期 連結決算概況」(Page 6, 7)

> https://www.olympus.co.jp/ir/data/brief/pdf/03_presentation_Q2FY2025_jp.pdf#page=6

「長期的かつ持続可能な成長を実現する戦略的な価値の源泉」の取り組みの進捗については下記ページをご参照ください
統合レポート2024「経営戦略とその進捗」

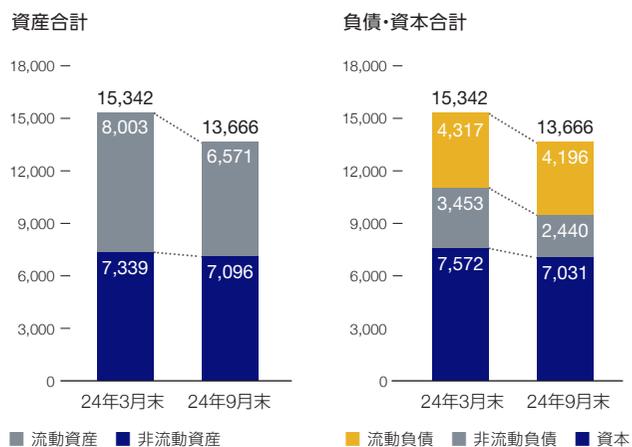
> https://www.olympus.co.jp/ir/data/integratedreport/pdf/integrated_report_2024j_07.pdf

業績の推移



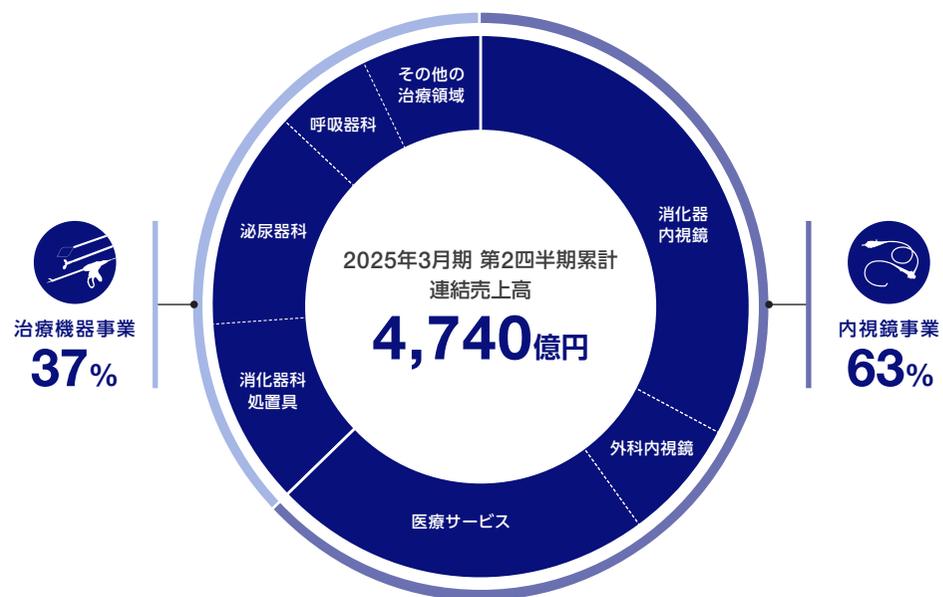
財政状態

(単位:億円)

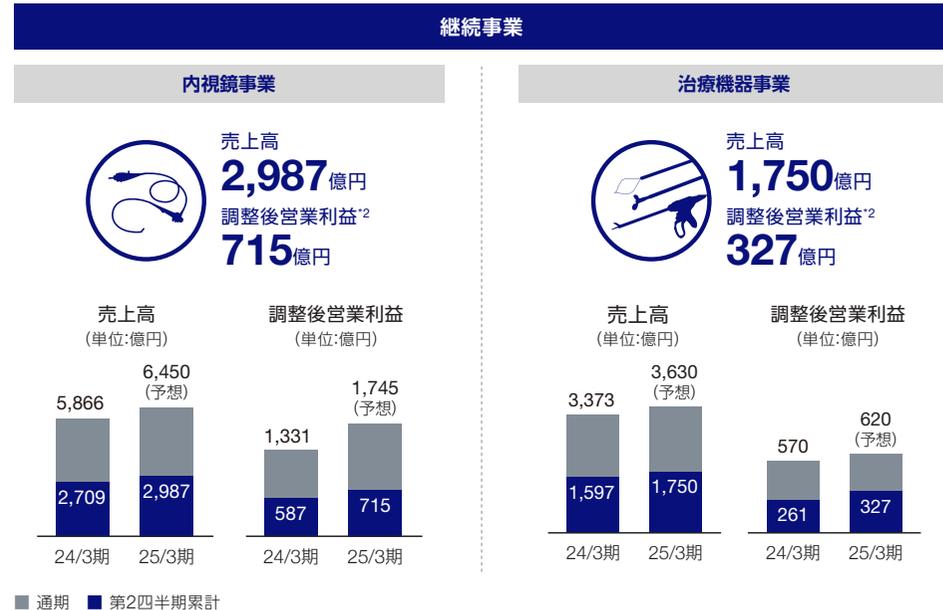


*1 「売上高」と「調整後営業利益および調整後営業利益率」の数値は、継続事業の数値を記載しております
*2 調整後営業利益は営業利益から「その他の収益・その他の費用」を差し引いた数値を記載しております

事業別の概況



2025年3月期 第2四半期累計実績

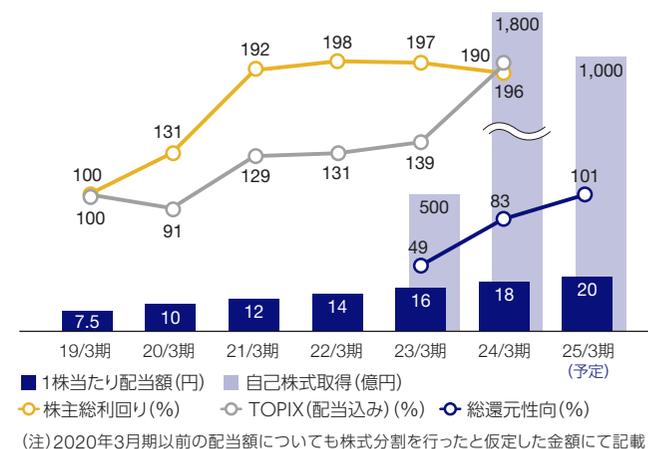


株主還元の方針

当社は、株主価値向上および、株主の皆さまのご期待に応えるため、下記の方針に基づき、キャピタルアロケーションを行っております。安定した財務基盤の確保を前提とし、成長領域への投資に優先的に活用した上で、安定的な株主還元を実施することを基本方針としています。今後もこれまでと同様に安定的かつ段階的な増配を目指し、運転資金および投資のための十分な手元流動性を確保した上で、余剰資金がある場合には、さらなる自己株式の取得を検討してまいります。なお、2025年3月期は2024年11月までに1,000億円の自己株式の取得を完了しています。今後もオリンパスの持続可能性を高めるとともに、株主の皆さまに最大限のリターンを提供することを念頭に、資本の配分を行ってまいります。



株主還元の推移



企業情報サイトのご案内

「サステナビリティ」

ガバナンス・社会・環境側面の詳細なデータを掲載しています



<https://www.olympus.co.jp/csr/>

「統合レポート2024」

経営戦略の進捗やオリンパスの目指す姿、コーポレートガバナンスの状況を解説しています



<https://www.olympus.co.jp/ir/data/integratedreport/2024.html>

「オリンパスの医療分野」

当社医療分野の強みや基本的な知識を紹介しています



<https://www.olympus.co.jp/ir/data/medical.html>

「おなかの健康ドットコム」

おなかに関わるさまざまな病気を紹介するとともに、がん検診制度や内視鏡検査について解説しています



<https://www.onaka-kenko.com/>



オリンパス株式会社 (証券コード:7733)

〒192-8507 東京都八王子市石川町2951
042-642-2111(代表) <https://www.olympus.co.jp>



「JPIXプライム150指数」に選定